

水と環境

長年の研究成果を総括

東北学院大学・石橋教授、遠藤教授が退職記念講演へ

感謝と達成感に満ちた語らいに



石橋教授



遠藤教授

今春で退官する東北大
院大学の石橋良信教授、
遠藤銀朗教授の退職記念
講演会が13日、仙台市内で
関係者約60人を集めて
開催された。

石橋教授の講演テーマ
は『水と衛生』(アジアと
私)。「専門を持つつて初めて想像力が生まれる」という丹保北大名誉教授の言葉を引用して口
火を切った石橋教授は、「大学時代に衛生工学といふ分野を知り、水道工学の佐藤敦久先生に師事した」と学術分野に進んだきっかけを紹介し、「衛

生」という言葉の創始者である長与専嘉からの衛生分野を軸にした水道の歴史に触れた上で、自身が関わった水質面での水道を取り巻く課題のうち、かび臭やクリアト問題への学究的アプローチを振り返った。

かび臭については、釜房ダムにおける調査研究に始まり、その過程で初期の遺伝子工学に触れた経緯も紹介。アジア理論と人工ニューラルネットワークを組み合わせたファジイニューラルネットワークの提唱に至った経緯も説明した。また、JICA専門家として2年間赴任したバンコクのAIT時代(ニアジア工科大学)は「アジアの衛生と水問題をつなぎに見ることができ、人脈形成

の関係性に留意したタイ

の国コシンケン大学との共同研究の内容も紹介した。

最後に、「安全な水を供給することで医療機関

を用いる前段階での制御が可能になるが、今

でも安全な水が使えない

ことがあって、人脈形成

の経過も説明。

原虫問題については、

その定義と特徴に触れた

上で、クリプトスボリジ

ウム対策が水道に与えた

影響の大きさを強調し

た。加えて国際保健との

関わりにも言及し、医学

分野とのコラボレーション

によって研究が進展し

た経過と自ら代表を務め

た経過」と今後に向けた

抱負も語り、「感謝」の

言葉で締め括った。

「私のこれまでの研究

をテーマに講演を行った

遠藤教授は、主な研究と

有機物分解処理とエネル

ギー回収など微生物を用

いた環境汚染防止技術の

開発などを紹介し、「

環境浄化への利用に

向けた意欲を示した。最

後に、「学生と一緒に研

究することこれが最大の樂

しみだった。毎年、夏休み

は体調が悪くなり、秋に

なつたら回復するので学

生の存在が私のストレス

の解消剤だった」と教員

ズムを見出し、生活を振り返り、実感を

込めてその達成感を口に

披露した。写

真も示しながら、教鞭を執るとも

残り、教鞭を執るとも

に研究活動も行う予定

だ。

なお、石橋・遠藤両教

授ともに今年4月以降も

特任教授として同大学に

水俣病の研究活動も行う予定

だ。